

第2次南アルプス市総合計画  
後期基本計画・施策マネジメントシート

作成日: 令和5年 7月14日

更新日:

政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐむまちの形成	施策主管課	文化財課
施策No.	27	施策名	歴史・伝統文化の振興	施策主管課長名	岩間 修司
施策関連課名					

1 施策の目的と指標

(1) 対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
A) 市民 B) 文化財	A 人口	人
	B 指定・登録文化財、埋蔵文化財	件
	C	
(2) 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	(4) 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
A) 歴史的文化資源や伝統文化を知り、活用する B) 適切に保護・活用される	① 市内には、守り伝えるべき豊かな歴史があると感じる市民の割合	%
	② ふるさと〇〇(まるまる)博物館のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数	件
	③ 過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合	%
	④	
成果指標設定の考え方	① 歴史的文化資産への市民の気付きの状況を示す/市民が歴史的文化資産や伝統文化を知ることで、守り伝えるべき豊かな歴史があると気付く市民が増えるので、成果指標とした。	
(成果指標設定の理由)	② 歴史的文化資源の掘り起こし・保護・活用の状況を示す/歴史的文化資源を掘り起こし、データベース化することで、その資産が適切に保護され、市民がその資産を知り活用することができるようになるので、成果指標とした。	
	③ 歴史的文化資産の活用の状況を示す/歴史的文化資産が適切に保護され、市民がその価値に気付けば、史跡を訪問するなど歴史文化に触れる機会が増えるので、成果指標とした。	
	④	
成果指標の測定方法	① 市民アンケート『市内には守り伝えるべき豊かな歴史があると感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合	
(どのように実績値を把握するか)	② 地域の歴史的文化資源を掘り起こし、活用する取り組みである「ふるさと〇〇博物館」のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数	
	③ 市民アンケート『過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたことがありますか』において「はい」と回答した人の割合	
	④	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画				後期基本計画							
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
対象指標	A 人口	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430		
			実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434			
		実績値	633	633	635	638	639	639	634	634	634	634		
成果指標	① 市内には、守り伝えるべき豊かな歴史があると感じる市民の割合	%	見込み値											
			実績値				52.8	58.5	52.4	55.6	55.4			
	② ふるさと〇〇(まるまる)博物館のデータベースに登録された地域の歴史的文化資源の件数	件	見込み値											
			実績値			72	309	423	660	792	890			
	③ 過去1年間に、市内の歴史に触れたり、史跡を訪れたりしたことがある市民の割合	%	見込み値						29.0	30.0	31.0	32.0	33.0	
			実績値				27.8	23.8	23.0	22.4	20.7			
	④		見込み値											
			実績値											
	目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
	① 地域の歴史的文化資産の保護と継承にはまず、市民がその存在と価値に気付くことが重要であるため、現状の数値から5年間で5%向上を目指し、令和6年度には58.0%とした。													
	② 地域の歴史資源の発掘調査を行いデータベースに登録する集中取り組み期間終了の令和3年度までは、毎年成行き値より10%多い目標値とし、令和4年度以降は、成行き値より5%多い目標値として、令和6年度には532件とした。													
	③ 市民が歴史的文化資産の価値に気付くと、歴史文化に触れる機会が増えるので、現状の数値から5年間で5%向上を目指し、令和6年度には33.0%とした。													
④														

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
・ふるさとの歴史や文化財を知り、それを自らの資産、財産としてとらえ、主体的に守り伝え、活用していく。(市民・地域の役割) ・地域に根差した歴史的文化資源の掘り起こしを、行政と市民が協働で行い、行政が学術的、技術的側面がサポート、また国・県への橋渡しなどを行う。(協働)	・地域の歴史的文化資源を収集・保全するとともに、これらを調査し、市民に地域の歴史的な成り立ちや個性を知ってもらうため、その環境や機会を提供する。(市の役割) ・改正文化財保護法(平成30年6月)に定められた「文化財保護活用地域計画」等を策定し、地域の文化財の総合的な保存活用の方針を示すとともに、地域の文化財の把握のために必要な措置を講じていく。(市の役割) ・その他、市民や市が行う文化財の保護、活用に関わる活動を支援していく。(国・県の役割)

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・国全体の流れとして、文化財などの歴史的資産を積極的に活用し、まちづくりやインバウンド観光の資源として地域創生や地域経済の活性化に貢献する役割が期待されている。〔文化資源を活用した観光インバウンドのための環境整備(文化庁)ほか〕。この動きは今後更に加速するものとみられる。 ・ユネスコエコパークの移行地域として、南アルプスの自然や風土の中で育まれた地域の歴史的な個性を「ふるさと〇〇博物館推進事業」などを通じて、公開し、振興に努めていくことが求められている。(市長公約) ・無指定の文化財を含め、文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会が総がかりで、その継承に取り組んでいくことが重要と国の文化審議会の答申を受け、文化財保護法の改正が行われている。(平成30年6月)。	・議会から・・・文化財や歴史的資源の掘り起こしや磨き上げを進め、土偶キャラ「子宝の女神ラブリ」なども含めて観光や地域活性化、シティーセールスに積極的に活用すべき、また、史跡巡りなどは重要なので今後も続けるべき、などの意見や要望が多数寄せられている。(一般・代表質問など) ・住民から・・・史跡探索や伝統文化の体験活動の機会を増やしてほしい」「市の歴史の発信機会を充実してほしい」(市民アンケート)、「国指定史跡へ行っても仕組みや価値がわかりにくい」(市民・学校)などの意見が寄せられている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	16	16	16	16	16
関連事業予算額(単位:千円)	52,586	57,050	90,983	183,440	
国庫支出金	0	0	21,590	32,978	
県支出金	10,431	12,124	11,370	23,761	
地方債	0	0	0	57,700	
その他	21,000	23,400	23,450	24,251	
一般財源	21,155	21,526	34,573	44,750	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった	市民アンケートにおける、3つの成果指標の数値について、①の成果指標は、目標どおりの数値となった。市民向け講座や、教育普及事業の実施、デジタルアーカイブ等のアクセス件数の増加により、歴史的・文化的資産への認知度が高まったと考えられる。 ②の成果指標は目標を大きく上回る件数が登録出来た。コロナ禍により地域に出向いてのフィールドワークが十分行えなかったが、これまでの調査で蓄積した歴史資源を整理して登録を行った。 一方で、③の成果指標については、目標値に届かなかった。ふるさと文化伝承館や安藤家の入館者は前年度から増えており、コロナ禍からの回復傾向にあると思われるが、まだまだ文化財に触れるための外出については回復途上と思われる。	
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	評価の実績値について、①の成果指標は、平成30年度と比較してほぼ横ばいの指標となった。今後も市民向け歴史講座や、小中学校向けの教育普及事業を開催し、歴史的・文化的資産の認知度が高まるよう努めるとともに、デジタルアーカイブ等をさらに充実していく。 ②の指標は、平成30年度と比較して581件増え、令和4年度の目標値と比較しても84%増と大幅に上回った。コロナ禍でフィールドワークが出来ない時間を利用して、いままでの調査で蓄積した歴史的資源の整理、登録を進めた結果である。 ③の成果指標については、目標値に届かなかった。ふるさと文化伝承館や安藤家の入館者は前年度から増えており、コロナ禍からの回復傾向もあると思われるが、まだまだ文化財に触れるための外出については回復途上と思われる。	
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	他自治体と比較すると、教育普及事業等で小中学校向けの授業や一般市民を対象にした講演を、年間195回実施しており、広報誌においては「ふるさとの誇り」を連載して既に190回を超えていることから、文化財を守り伝える取り組みを熱心に行なっている。他団体において比較する数値は無いが、近隣市町の担当職員の話から推定して、当市は高い成果水準にあるといえる。 また、ふるさと〇〇博物館推進事業など本市独自の施策も進めており、〇博アーカイブの閲覧数は年間30万件と前年度から急増した。これは、ギガスクールに伴う小中学校の授業での閲覧が増えたことも影響した。	

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
南アルプスの自然や風土に向き合い、これに関わる中ではぐくまれた地域の歴史的な文化資源や伝統文化の魅力を明らかにするとともに、適正に保存し、継承に努め、広く情報を公開し、その活用に向け取り組む。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 歴史的な文化資源や伝統文化の保存と継承	「文化財保護活用事業」や「埋蔵文化財調査受託事業」、「市内試掘確認調査事業」、「ふるさと〇〇博物館推進事業」などを継続して推進することにより、文化財を守り伝えるための保護、継承に努めている。	文化財の所有者・管理者と協働で、その保護に努めるとともに、保存すべき歴史的な資源を掘り起こし顕在化し、データベースに登録することや、伝承館での展示等へ反映させることを通じ、その価値を継承していく。
2 歴史的な文化資源や伝統文化の公開と活用	「文化財保護活用事業」や「ふるさと〇〇博物館推進事業」などを継続して推進し、文化財の価値を知ってもらうための公開、活用に努めている。 また国指定史跡「樹形堤防」整備工事を令和4年度から引き続き行っており、適切な保存と公開に向けて取り組んでいく。	樹形堤防整備工事は令和5年度末に完成予定となる。その後一般公開を行い、より多くの人に見学していただくため、取組んでいく。また他の文化財施設も安心して訪れてもらえるよう環境整備を進め、市内外の人に史跡や文化財の歴史的価値を知ってもらうために活用していく。
3		
4		